

2026年11月 免税制度改革に伴う CSV連携仕様変更について

他社システム連携・取込フォーマットの移行ガイド

Nov 2026 Migration Guide

Target: System Integrators & POS Developers



開発者が対応すべき5つの主要変更点

本資料では、2026年11月の免税制度改正（リファンド方式対応）に伴い、他社システムから「eあっと免税」へデータを取り込む際のCSVフォーマット変更仕様を解説します。

01 構造変更 (Structure)
伝票単位のヘッダー行 (H) の追加が必須化。

02 明細上限 (Limits)
1取引あたりの明細行は最大200行までに制限。

03 物品区分 (Classification)
一般・消耗品の区分撤廃。「免税対象外」区分の新設。

04 高額商品 (High Value)
100万円超の商品は数量1で分割し、詳細情報の記録が必須。

05 命名規則 (Naming)
ファイル名に「秒」を含め、重複を防止。

```
Row 1: H, [Ver], [Tax], [Total] <-- 伝票情報 (Header)
Row 2: D, [Item], [Price]... <-- 明細情報 (Detail)
Row 3: D, [Item], [Price]...
...
Row N: D, [Item], [Price]...
```

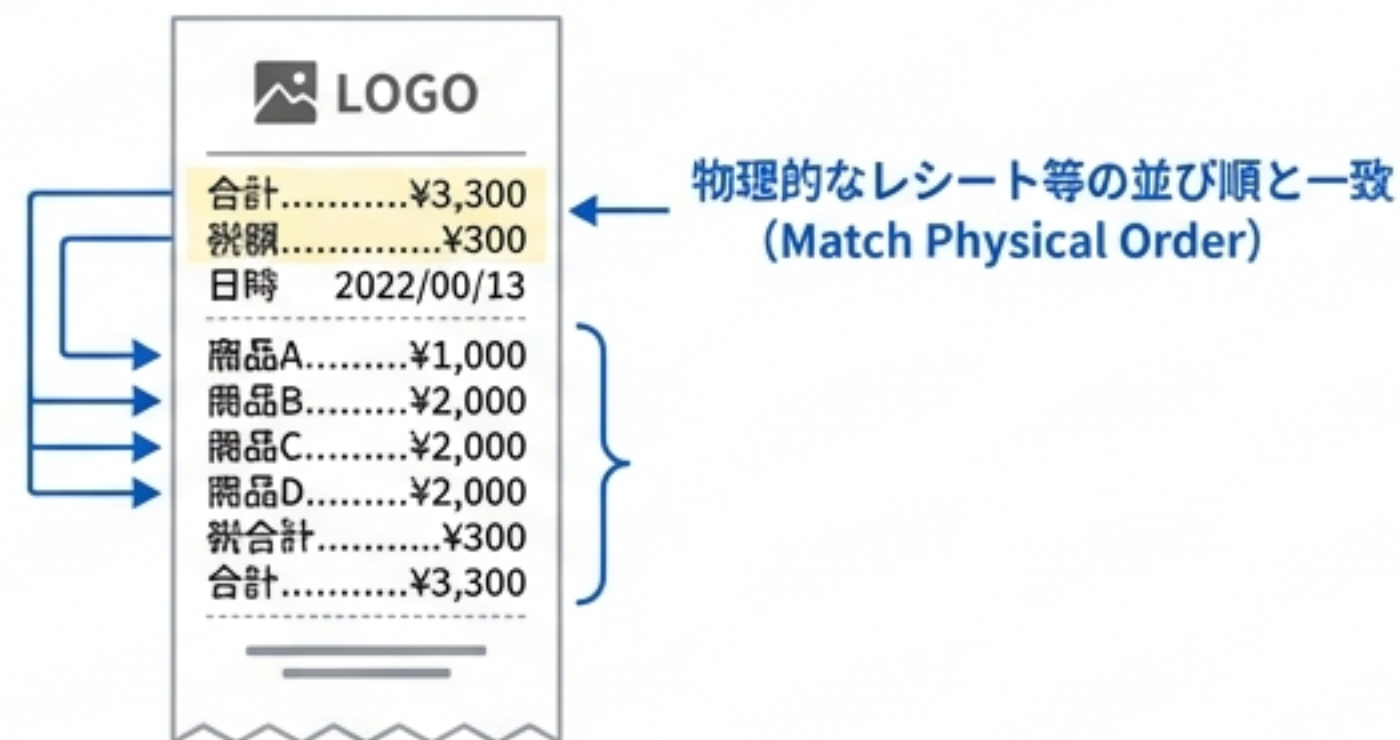
伝票情報（ヘッダー）の追加とデータ構造の変更

構成の変更

これまでの「商品明細のリスト」形式から、1行目に「伝票情報（H）」、2行目以降に「明細情報（D）」を配置する階層型構造へ変更されます。

変更の理由

リファンド方式への対応により、商品単位ではなく「伝票（取引）単位」での正確な消費税額を国税庁へ送信する必要があるためです。



Column 1 (ID)	:	"H"
Column 2 (Ver)	:	"02"
Column 3 (Tax)	:	"1000"
Column 4 (Sales)	:	"11000"
Column 5 (TaxFree)	:	"10000"

1行目：伝票情報（ヘッダー）の仕様詳細

⚠ Critical Field: 伝票免税額

ここに入力された金額（消費税相当額＋酒税相当額）が、旅行者への払戻額の基準となります。POSレジ側で計算した正確な税額を連携してください。

Validation Logic: 整合性チェック

「免税対象の合計額」が入力されている場合、システムは続く明細行（D）の合計値とこのヘッダー値が一致するか検証を行います。

Note: 情報識別子は必ず先頭に「H」を指定してください。

[Column: 物品区分]

Val '1': 免税対象品 (Old: General)

Val '2': 免税対象品 (Old: Consumable)

Val '3': 免税対象外 (New!)

物品区分の統合と「免税対象外」の新設

区分の統合

制度改正により「一般品(1)」と「消耗品(2)」の区別がなくなります。今後はどちらも「免税対象品」として同様に扱われます。

区分「3」の追加

新たに「免税対象外(3)」が追加されました。これにより、レシート全明細をCSVで連携可能です
(区分3は取込時に自動で国税庁送信対象から除外されます)。

従来通り1または2で送信されたデータは、すべて免税対象として処理されます。

MAX 200 ROWS

Qty : "1"
Detail : "Luxury Watch Model X"
Serial : "SN12345678"

Qty : "1"
Detail : "Luxury Watch Model X"
Serial : "SN12345678"

明細上限数と高額商品の入カルール

最大200明細

ヘッダー行の追加に伴い、1回のアップロード（1伝票）あたりの上限は200明細となります。

100万円超の商品

税抜単価が100万円を超える商品は、数量を「1」にして行を分割する必要があります。 Qty: 1

Mandatory Data

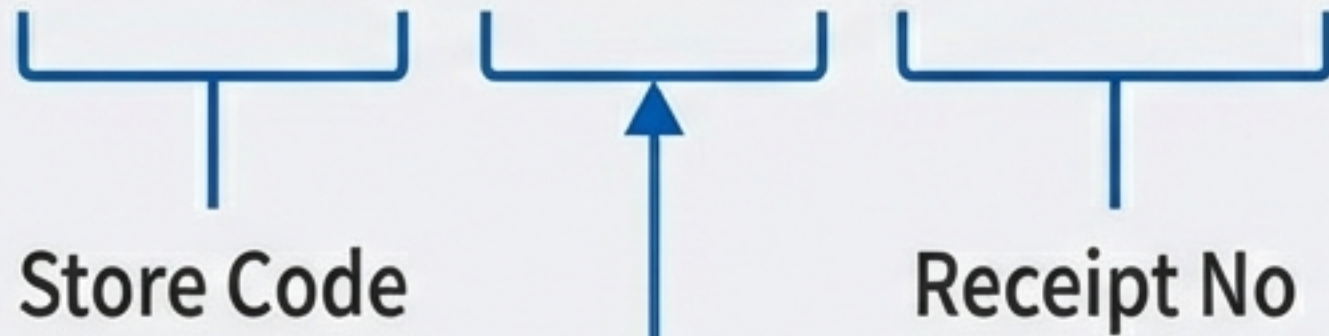
高額商品には「商品情報詳細（品目詳細）」および「シリアル番号」の連携が必須となります。

⚠ Error Warning

高額商品の行分割によって合計が200明細を超えた場合、エラーとなり取り込めないためご注意ください。

[JetBrains Mono]

ssssyyyymmddhhMMsszzzaaaaaaaaaa.csv



Time ⚠ Seconds Required!)

ファイル命名規則とキー項目のマッピング

秒単位の指定

重複防止のため、譲渡時刻には必ず「秒（ss）」を含めてください。

マッピングロジック

ファイル名は、eあっと免税システムとPOSデータを紐付ける主キー（Barcode No）として機能します。

レシート連携

末尾の aaaaaaaaaa 部分は、システム内の receipt_no_2 として保持され、TenpoVisor等の出力データとの照合に使用されます。

実装・移行チェックリスト

- ☐ ヘッダー生成：CSVの1行目に「H」行を出力し、バージョン「02」を指定しているか。
- ☐ 税額計算：ヘッダーの「伝票免税額」がPOSの計算結果と一致しているか。
- ☐ 行数制限：1伝票が200明細を超えないロジックになっているか。
- ☐ 高額商品：100万円超の商品は1行ずつ分割し、詳細・シリアルを出力しているか。
- ☐ ファイル名：タイムスタンプに「秒」が含まれているか。
- ☐ 区分テスト：「免税対象外（区分3）」を含むデータの取り込みテストを行ったか。

すべての項目が、すべての項目がクリアされた後、連携テストを実施してください。